

2009 年度テーマ「地域の医療を守るために私たちができること」

「観てたらきつとわかる」

アイススケートの中野ゆかりの大ファンの十歳の孫のつきそいで豊橋で行われたショーを観た。

「どうして中野由加里のファン？」

「がんばってがんばっているのに、1 位も 2 位も取れないんだ。でもいい」

「ふーん、どういふところがいい？」

「えーッ・ババはわからないの？」

「????」（言わんとすることは分かる。好きなタイプはあまり目立たなくて・・・）

「ばば、観てたらきつとわかるから」と言った。フィナーレになった。荒川静香・伊藤みどり・スターたちを前にしてここぞと握手せめるババとは対照的に、孫の目はひたすら遠く

進み具合の遅い中野由加里だけに注がれていた。ようやく孫の前に彼女が止まり、孫の目だけを見て一輪の花と手紙を丁寧に受け取った。彼女だけに握手を求めた孫は、満足気だった。なぜ好きなのか分かった。

木村院長・小出会長・稲垣議長・、その下で働く方々に、何度もお目にかかってきた。共通する何かがあった。それは何なんだろうと思う。誠実さ、謙虚さ、一生懸命さ、聴く力、雰囲気……。しかもその対象が自分ではなく、市民だという確かさを感じた。

四人の指導者たちは、勉強会の中で交流され、きつと互いを信ずるに値する人たちだ感じられたと確信している。

「観てたらきつとわかる」

この言葉が、確信となった勉強会でした。私たちも、それぞれの立場を理解し今できることをしていきたいですね。橋詰

勉強会

3 月 14 日（土）13:30~15:45

シリーズⅡ

勉強会の報告

「地域の医療を守るために私たち（市民病院・医師会・議員・行政・市民）ができること」

1. 木村先生の話

①365 日 24 時間地域連携の中で「患者さんに感謝され地域に信頼され職員が誇れる」病院を目指している。

②救急医療の問題点

- ・専門医不足—当直でなく夜勤体制にして過重労働にならないようにしていく
- ・中年の使命感をもった医者とそれを見てやる気を持った若い医者で支えている
- ・病床の確保—地域全体の病床管理→医療圏の見直し—増床

2. 小出先生の話

①今（現状）・・・二次救急病院がない・・・愛知病院は一般病床がなくなりがん専門に特化している

これから・・・岡崎は一次と三次でやっていくしかない。となれば一次機能をしっかりやる→在宅診療は 60 の診療所が OK している。

具体的に・・・医療圏分割について市議会から県へ話してほしい

3. 保健所（高橋さん）

①医療圏の分割

②病床数が増える見込み

③産科病床 申請 1 件あり

4. 市議会議員（稲垣さん）

①小出先生木村先生の考えを聞いて

「今まで市民病院のあり方を考えたことはなかった。しかしこれからは変わります」

5. 市民—重度障害者病棟について

市民—今日はこの会に来て良かった。病院の先生も医師会も市会議員も市民病院を核としてもっと医療を充実してほしい！

ここに集まった人それぞれの立場で役割りがある。

できることは何か、どうしたらいいのかを考えましょう



医療者の立場から【嬉しかったこと・悲しかったこと】

♥寄せられた原稿のほんの一部分だけです。全文を読みたい方は事務局までお知らせください。

【嬉しかったこと】

- ・看護師として患者さんと接していて嬉しいと思うことは、病気・症状が良くなり元気に退院できることが一番うれしいですが、全ての患者さんがよくなることはむずかしいので、きびしい状況の中で小さなことでも患者さんにとってよいことがあり、笑顔や楽しそうな表情がみえるとうれしく思います。
- ・とても忙しく働いているので、ささいな言葉かけ「ありがとう」「おつかれさま」などを患者さんや家族に言ってもらえると嬉しいです。
- ・入院したばかりの頃はたくさんの不安をかかえてストレスがたまり、私たち看護師に不満をぶつけたり、何でもないことでおこったり涙が出たり・・・、そんな感情をストレートにぶつけ、ただ聴いて聴いて励ますことしかできなかった患者さんが、少しずつ病気を受容し自分なりに共生していける勇気ができた時。

【悲しかったこと】

- ・痛みがとりきれない時、もう何もしてあげられない時、等、ターミナル患者様の時に多いでしょうか？
してあげたくても、忙しかったり時間がなく患者さんの希望通りにしてあげられない。
看護に限界を感じる時。（痛み、苦しい、淋しい、息苦しい、等）。
- ・理不尽な訴え、暴言、不穏での暴力、「言葉の暴力」を受けた時。
- ・終末期や治癒困難で入院している患者さんに対し、時間的にゆとりがなくて十分にケアできないままお見送りする時。
患者さん本人の意思を尊重してあげたいと思うが、家族や主治医と意見が一致しえない時、精一杯できることを行っても最後にしこりが残った感じがしてしまう。

【その他】

- ・当院は三次急病院としての役割があるため、治療困難・終末期にある患者さんにとっては 精神的な面からしてデメリットがあると思います。しかし、どんなステージにある患者さんであってもその人の人生、「どう生きたいか」に耳を傾けて、援助できるように努力していきたいと思います。
「医者まかせ」ではなく、ご自分の身体・心に興味をそそぎ、医療スタッフと一緒に考えていきましょう。
- ♥紙面いっぱいにかかれた看護師さんたちの思いを読み、医療を守るために私たちができることはそこで働く人を応援し守ることだと改めて思いました。

“緩和ケア病棟ボランティア” の報告

ティーサービス・季節の模様替え・アロマ・楽器演奏・デイケア

◆ティーサービス（毎週金曜 13：30～16：30）七夕会

7月3日の午後、願いごとが書かれた短冊、色とりどりの折り紙切り紙で飾られた笹飾り。7階ラウンジで年に一度の七夕会。病室からラウンジに出られるかどうか患者さんの症状の変化を見計らって、ギリギリ2時の開始まで迷われる看護師さん。気付けばラウンジにはたくさんの患者さん御家族の方でいっぱいになっていました。二種類のお菓子の中から好きなものを選んでいただき、お気に入りの飲み物を飲み、白衣を浴衣に着替えた先生と看護師さんの演出で紙芝居、ハンドベル、そしてやさしい音色のハーブ演奏、最後はみんなで合唱。あっという間の30分でした。

季節の行事をその場でであった人みんなで共に分かちあう喜び、そこに居合わせた一人ひとりの心の中にあたたかいものをいただいて終了しました。ありがとうございました。

◆アロママッサージ（毎週金曜日 14：30～15：30・木曜日随時） ◆楽器演奏（月1回 金曜日 14：30～15：00）

♥ボランティア募集中＝ティーサービス・アロママッサージ・楽器演奏 おためし期間も用意しています。

“手縫い” の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を手作りしてお届けしています
（第1木曜日 13：00～16：00 カトリック教会 ・第2火曜日 10：00～12：00 愛知病院）

作っているものの1つに「バンダナ」があります。筒状のものと前髪がついたものですが、抗がん剤治療で一時的に髪が抜けてしまった方に使っていただいています。綿ジャージでできた筒状の物は結び目がなく寝る時便利です。前髪を付けて自然な感じのバンダナは好評ですが、栗色の髪毛がなかなか手に入らず、供給がおいついていません。病気療養中であっても、毎日前向きな気分ですごしていただける事を願いながら作っています。

“つどい” の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり （第3木曜日 10：00～12：00 事務局橋詰宅）

御主人を亡くされた方が「本当に悲しい時は涙がでない」次から次と続く手続きと手配・心無い中傷・・・「悲しんでいられない」というのが現状だと話された。「一人になった時どっと悲しみが襲ってくる。亡くなっても思い出は残り、その中で生きている」そんな話を伺うこともあります。「脳死」についての意見交換もしました。

◆御寄付ありがとうございました。中林良夫様 永谷美雪様 匿名希望様 石田久恵様 伊藤千寿様